

# 鹿児島県の高速交通ネットワークの整備について

## ～地域高規格道路 都城志布志道路の整備効果～

鹿児島県 土木部 道路建設課

### 1 はじめに

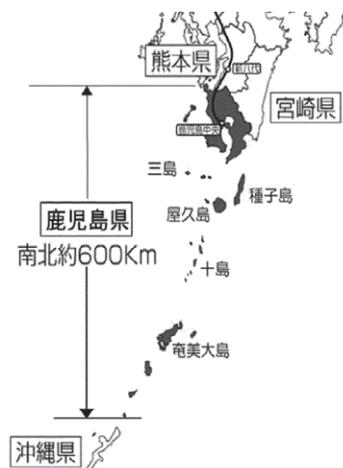
鹿児島県は、日本本土の西南部、九州の南端に位置し、総面積は約9,187平方キロメートル、九州本土に属する薩摩、大隅の二大半島及び長島、甌島並びに西南に延びる種子島、屋久島、奄美群島の島々からなり、南北約600キロメートルにわたります。

薩摩、大隅半島は相対して深く湾入した鹿児島湾を抱き、湾岸の屈曲が多く、また多数の島しょのため海岸線は長く2,643キロメートルに及んでいます。

このように、本県は半島地域や多くの離島など地形的な制約を受ける広大な県土を有し、移動手段を自動車交通に大きく依存しており、産業の振興や地域の活性化、県民生活の安全・安心の観点から、高規格幹線道路をはじめ県民生活に密接に関連する道路など、必要な道路整備は着実に進める必要があります。

本県においては、現在、高規格幹線道路として、東九州自動車道、南九州西回り自動車道、地域高規格道路として、鹿児島東西幹線道路、北薩横断道路、都城志布志道路、大隅縦貫道の整備が進められています。

これらの中から、大隅地域において、国、宮崎県と一体となって整備を進めている「都城志布志道路」について、御紹介します。



注)インターチェンジ名のうち( )は仮称 佐多峠

## 2 事業目的

都城志布志道路は、宮崎県都城市から本県曾於市を經由し、志布志市に至る約40キロメートルの地域高規格道路です。宮崎県第2位の都市、都城市（人口約16万人）や九州縦貫自動車道宮崎線と志布志港を連結し、広域交通ネットワークを形成することにより、物流の効率化、地域の活性化を支援することを目的とした路線です。

本道路は、宮崎県と鹿児島県に跨がり、都城市高木町から同市五十町までの約14キロメートル区間を国、同市五十町から県境までの約9キロメートル区間を宮崎県、県境から志布志市志布志町までの約22キロメートル区間を鹿児島県が施行しています。

平成6年12月に計画路線に指定され、平成8年8月の末吉松山有明道路の整備区間指定を皮切りに、本格的に整備に着手しました。

これまでに、宮崎県側の平塚ICから梅北IC間約5.1キロメートル及び鹿児島県側の末吉ICから有明北IC間約8.3キロメートルを供用しています。

本県では現在、末吉道路、有明道路、有明志布志道路及び志布志道路において、用地買収や改良工事等が進められています。



### 3 事業概要

#### 1) 末吉道路

事業区間：宮崎県境～曾於市末吉町南之郷

事業延長：2.9km

幅員：12.0m（車道 3.5m × 2）

事業着手：平成 25 年度

#### 2) 有明道路（平成 29 年度供用予定）

事業区間：志布志市有明町伊崎田

事業延長：4.3km

幅員：10.5m（車道 3.5m × 2）

事業着手：平成 22 年度

#### 3) 有明志布志道路

事業区間：志布志市有明町伊崎田

～同市志布志町安楽

事業延長：3.6km

幅員：10.5m（車道 3.5m × 2）

事業着手：平成 19 年度

#### 4) 志布志道路

事業区間：志布志市志布志町安楽

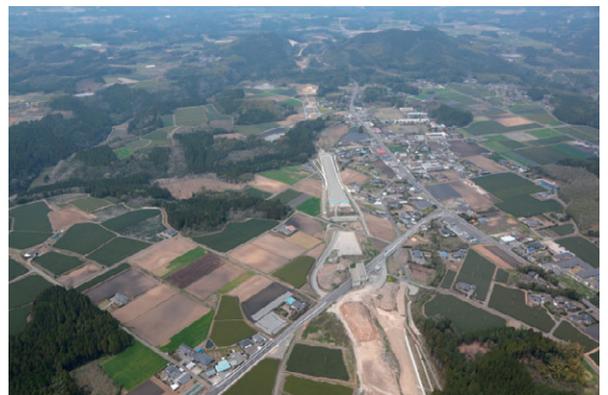
事業延長：3.2km

幅員：22.5m（車道 3.25m × 4）

事業着手：平成 23 年度



末吉町南之郷付近



有明町伊崎田付近（伊崎田 IC）

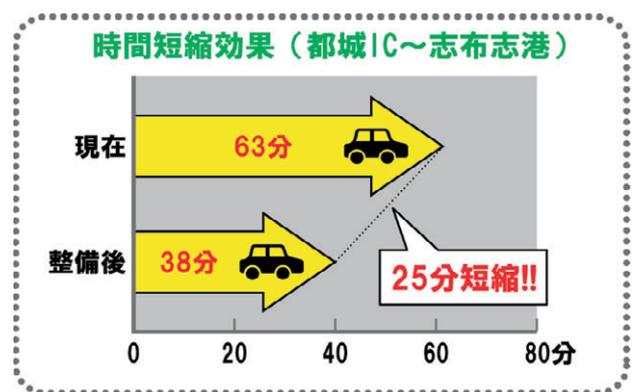


志布志町安楽付近（志布志 IC）

### 4 整備効果

#### 1) 広域交通ネットワークの形成

都城志布志道路では、平成 17 年 2 月に、最初に末吉 IC から松山 IC 間を供用し、その後、平成 20 年 2 月に松山 IC から有明北 IC 間、平成 23 年度には宮崎県の平塚 IC から梅北 IC 間を供用しています。平成 29 年度には宮崎県の梅北 IC から金御岳 IC 間、鹿児島県の有明北 IC から有明東 IC 間の供用が予定されています。都城 IC から志布志港まで



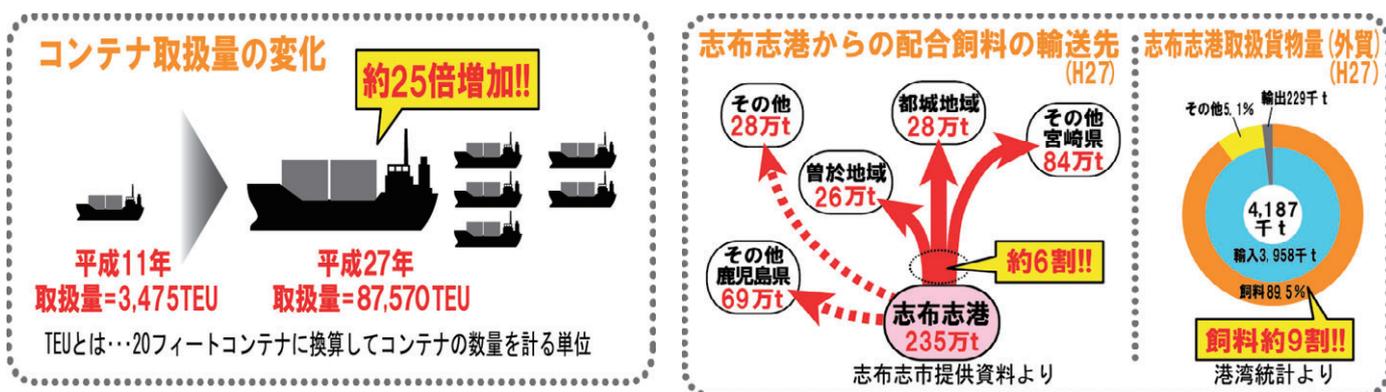
の車の移動時間は、現在は63分かかりますが、全線が供用すると、38分に短縮される見込みです。

## 2) 国際バルク戦略港湾「志布志港」とのアクセス向上による物流の効率化

志布志港は、中国、台湾、韓国への外国貿易コンテナ航路が就航しており、神戸、香港等でのトランシップによりアジアをはじめ、北米、豪州、欧州等世界各国と結ばれています。外貿コンテナ貨物の取扱量が急速に増加し、平成11年に比べ、平成27年では約25倍となっています。

また、背後圏の都城・曾於地域は、我が国有数の畜産産出額を誇る食糧供給基地であり、家畜のえさとなる飼料や穀類が志布志港から輸送されます。

都城志布志道路の整備により、県内外から志布志港へのアクセスが向上し、物流の効率化が期待されます。



## 3) 行動圏域拡大による地域振興

都城志布志道路の整備により、大隅・都城地域内の行動圏が拡大され、救急医療、就学・雇用機会、観光などの振興、発展が期待されます。

また、農畜産物が大規模消費地へより早く、新鮮な状態で届けられます。



## 5 地元の期待

### 1) 志布志市臨海工業団地への企業誘致

志布志市が志布志港の背後地に臨海工業団地を造成し、販売を行っています。

都城志布志道路や東九州自動車道の整備が進み、アクセスが有利なことから、これまでに1、2工区に企業が進出することが決定しています。

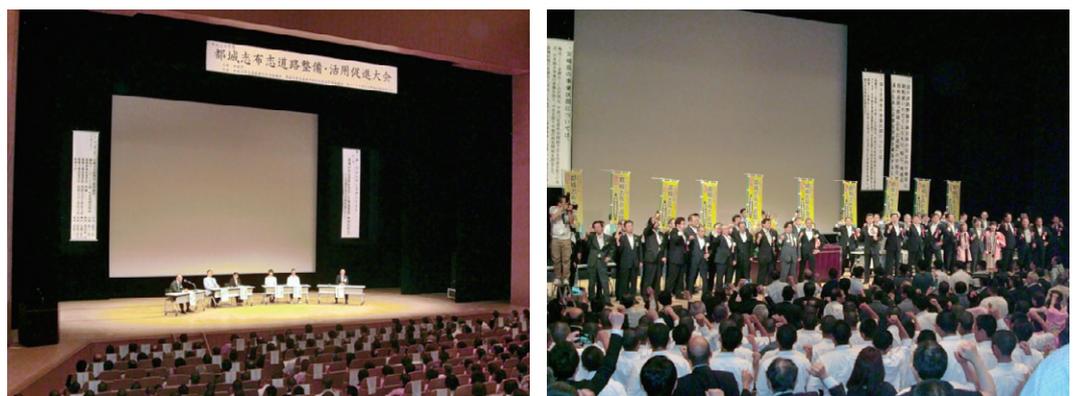
新たな雇用創出や定住促進が期待されています。



### 2) 促進大会の開催

平成28年5月には、都城市、沿線市で構成される建設促進協議会などの主催により、都城志布志道路整備・活用促進大会が開催されました。

民間企業や沿線自治体、高校生など約1,500名が参加し、早期整備に向け、地元の熱意が伝えられました。



## 6 おわりに

都城志布志道路は、東九州自動車道など高規格幹線道路と一体となり、広域交通ネットワークを形成するとともに、産業や観光の振興、救急医療などに資する重要な道路です。

現在、全線にわたり鋭意整備を進めていますが、全線開通にはまだしばらくの時間を要します。

本県としては、引き続き、国、宮崎県と一体となり、沿線自治体など地元の御協力も頂きながら、整備推進に努めます。